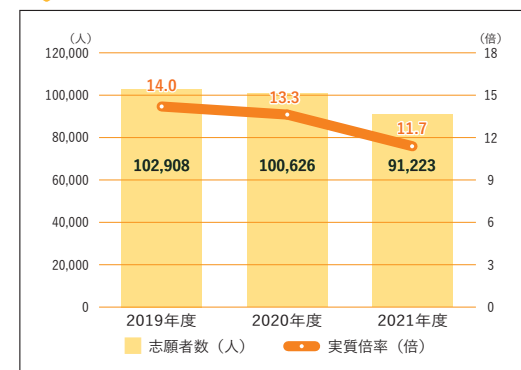


私立大学医学部 一般・センター(共通テスト)
利用入試の志願者数と実質倍率の推移



出典◎富士学院「医学部入試概況」
※「2021年度入試」は、2021年1～3月実施の入試

ました。これは大学入試改革の一環で、思考力・判断力・表現力を問う問題が多く出題される点などが特徴です。

2021年度の共通テストでは、生物の平均点が化学より約20点、物理より約15点高くなったため、得点調整が行われました。数学や理科では、知識問題が減り、代わりに思考力・判断力・表現力を問う考察問題が多数出題されました。しかし、思考力を問う要素が極めて表面的なものとなり、知識が不足していても答えを導き出してしまう考察問題が出題され、理系7科目で前年度のセンター試験より平均点が上がっています。

今後の大学入学共通テストの見通しと今からできる対策

2022年度以降の共通テストでは、新テスト導入初年度のさまざまな反省や検証を活かしたうえで、科目ごとに本来出題されるべきであった思考力・判断力・表現力を問う問題が出題されることになるとでしょう。また、知識を問われる問題も2021年度より多くなり、全体的に難化することが予想されます。

本格的な思考力・判断力・表現力を問う問題に備え、日常生活の中でこの3つの力の養成を意識して日常生活を送ることが大切です。常になぜそうなるのか、答えにつながるプロセスを考えることで思考力が養えます。判断力は、的確な判断を短時間でできるよう、反省や思考をくり返すことで身につけられます。表現力は、理解したことを周囲に伝えることで鍛えられます。

また、依然として続くコロナ禍により、2022年度も入試日程が変更される可能性があります。2021年度は第一日程と第二日程が設けられ、多くの現役生が第一日程を受験。第一日程と第二日程では平均点に開きがあり、第二日程のほ

Point.1 医学部入試の最新動向

長引くコロナ禍での医学部入試 受験者数は引き続き減少傾向

減少する医学部受験者数と 増枠する学校推薦型選抜

医学部の受験者数は国公立、私立ともに年々減少しています。ただし、受験者数の動向は学校推薦型選抜と一般選抜で傾向が分かれています。

一般選抜は顕著に受験者数が減少し続けており、特に2021年度の私立の受験者数は大幅な減少が見られました。私立医学部の2020年度一般選抜の志願者が前年度より2282人、受験者が2313人減少したのに対し、2021年度の志願者は前年度より9403人、受験者は8768人減少しました。一方、学校推薦型選抜の受験者数は2021年度の国公立を除いて増加傾向にあります。国公立医学部の一般選抜も志願者数、受験者数ともに減少傾向にあります。

2021年度の国公立は受験者数減少に下げ止まりの様子が見られました。国公立医学部の2020年度一般選抜の志願者が前年度より3325人の減少に対して、2021年度は263人の減少にとどまりました(富士学院調べ)。

受験者数の減少の原因には、少子化と18歳人口の減少が挙げられます。さらに医学部入試の倍率低下傾向などによる浪人生の減少も要因の一つです。また、一般選抜の私立受験者数の大幅な減少に関しては、コロナ禍の影響が一因としてあります。コロナ禍により、都心部での受験に不安が生じ、地方から都心部への受験や、都心部の私立への複数校受験を控える傾向が見られました。

こうした医学部受験者数の減少により、医学部合格のハードルは以前と比べるとかなり低くなっていると思います。受験

合格は医師になるためのスタートです。
医師になるという
自分自身の覚悟を見直し、
受験に挑みましょう。



富士学院 学院長
坂本友寛さん

者数が増加傾向にある学校推薦型選抜に關しても、受験者数の増加に勝る募集定員の増加により、実質倍率は低下しています。継続するコロナ禍において可否を大きく左右するのはメンタル面です。コロナ禍による健康面の不安はもちろん、学校教育の現場でもまだ不安がある中、受験生たちは入試に向かっています。この不安をいかに乗り越えるかにより、医学部入試の実質倍率低下というチャンスをつかめるかが決まります。

2021年に導入された 大学入学共通テストの実態

2021年度入試で、それまでのセンター試験は大学入学共通テストに変わりが平均点は低くなりました。これは第二日程が現役生のための日程ということもありますが、両日程で難易度に差があったことも要因の一つだと考えられます。

学力勝負だけではない 医師への覚悟を問う医学部受験

もともと医学部受験は学力だけでなく、医師になるという強い意志や覚悟を、小論文や面接試験を通して問われます。コロナ禍の2021年度入試ではそれらに加えて、メンタルの強さや安定感が試されました。これからの受験に向けて今一度、自分が医師になりたいと考えた動機を見直し、医師になる覚悟を再確認して、モチベーションを高めることがとても重要です。また、学校、家庭、塾や予備校などを含め、学習環境を整えることはメンタル面の安定にもつながります。

医学部受験では大学ごとに出题の範囲や傾向、その他合否判断の基準が異なるため、自分と大学との相性も合格のための重要な要素の一つです。早期から正しい情報を集め、医学部受験の準備を始めることで、より合格へと近づけることができます。

Point.4 教科・科目別の効果的な勉強法

医学部英語の特徴は、大学によって出題傾向や問題形式が大きく異なるという点です。全体的には読解問題重視の傾向ですが、問題量、文法・熟語問題の有無、記述問題の有無、自由英作文の有無など、大学ごとに大きな違いがあります。問題の難度もさまざまですが、語彙レベルも含めて全体に難度の高い大学が多く、しっかりとした対策が求められます。

特徴的な出題としては、医学・自然科学

系系のテーマの読解問題が多く出題されています。「脳」「遺伝」「睡眠」「記憶」「肥満」などのテーマは頻出です。また、「地球温暖化」「環境破壊」「AI（人工知能）」など、現代的なテーマに関する英文も多く出題されます。ほかに、教育、心理、社会、文化など多様な内容の英文が出題されるので、日頃からさまざまなテーマについて関心をもち、幅広い背景知識を養っておくことが重要です。

学習法としては、まず語彙と文法をしっかり固めることから始めてください。単語集や文法問題集を1冊決めて、早めに学習してしまいましょう。できるだけ短期間で1巡目の学習を済ませ、その後、何度も繰り返し読んで知識を定着させてください。2巡目、3巡目と繰り返し読む中で、確実な基礎力が身についていきます。なお、単語や熟語は必ず声に出して読みながら覚えてください。音声を利用できる場合

には、耳で聞きながら同時に音読するとより効果的です。

読解対策としては、短文を正確に和訳する練習を優先してください。重要構文を中心に、一文ずつ構造を理解しながら日本語に訳す練習をしましょう。ある程度学習が進んだら、徐々に志望大学の過去問や類題などを使って、実戦的な読解演習を重ねてください。設問を解く際は、何となく雰囲気で解答するのではなく、必ず解答の根拠を押さえて解答することが大切です。記述問題の場合は、可能な限り添削をしてもらうことが有効です。そして、学習した英文は何度も音読して復習しましょう。繰り返し音読することで、英語の語順で英語が理解できるようになり、速読力に加えて、リスニング力や英作文の力も身につきます。

なお、2021年から始まった「大学入学共通テスト」では、発音や文法などの出題はありません。リーディングでは、短時間でさまざまな英文を大量に読めるように的確に処理する能力が問われます。また、リスニングでは一部が1回読みになるなど、より実用的な出題となっています。早めの情報収集と分析、そして、対策の実行を心がけてください。

Point.4

英語

地道な積み重ねがポイント
早めの対策で基礎力を養おう

富士学院 英語科講師 荒木文範 先生

Point.4

数学

創意工夫が求められる問題も
基礎力と過去問演習が重要

富士学院 数学科講師 岡崎 博子 先生

今後の共通テストでは
理解の質が問われる

大学入学共通テストは、検討していた記述問題が保留になりましたが、今までのように、知識や解法の暗記だけで解答できる問題を減らし、理解の質を問うことも加えていく方針です。試行調査から、下がると予想されていた平均点ですが、結果は上がっていました。予想問題で問題文の読み取り方などの対策をした受験生が増え、試行調査ほど難易度が高くなかったからでしょう。ただ、来年は今年の結果を踏まえて、難化すると思われます。

新しい出題形式としては、1つの問題に複数の解法を要求する、日常生活の中から課題を発見していく形式もあり、その影響は国立大でもみられました。また、選択問題を設けていなかった大学が、数学科の単元を選べる、誘導がついている

といった、コロナ禍であることを考慮したであろう出題が目立ちました。この数年、多数の難問・応用問題というイメージは変化しており、すぐに結果の出ないことに対して、簡単にあきらめず、工夫し克服できるかが問われているようです。

変化する出題傾向
基礎を固めて対策しよう

とはいえ、最終的な答えにたどり着くのは容易ではありません。文章の長文化、パターンの詰め込みだけでは対応しきれないものが増え、以前より基礎・基本が重要になっています。初見の問題も、基本の組み合わせになっていることがほとんどです。教科書に載っている問題は、自然に処理できるまで繰り返し、暗記と、理解することを区別しましょう。

数学用語はそれに対応する式、記号は

使用する際の注意点も含めて覚えて覚えます。教科の計算は少々控えてあるので、普段から、展開より因数分解が優先、置換連立方程式の手順といったことを意識しておく、煩雑な計算も処理できるようになります。アウトプットの作業は、知識と結びつく鍵となる言葉を決め、定番の動きを速く行えるようにします。

過去問演習を繰り返し
粘り強い対策を

過去問演習で対策をしましょう。高校の学習だけでは補えない、小・中学校からの地道な取り組みにも気づけます。また、熟考しないうちに解答解説を見ないよう。題意をつかみ、少しずつ式にし、組み合わせていきます。グラフや図を利用することも手です。解答方針の全体像が見えなくても、1行ずつ進み、その式を確認してから次の策を考えることです。

自分で知恵を絞りましょう。何度か繰り返しうちに、力の発揮方法がわかってきます。最初は忍耐が必要ですが、続けることです。2021年度は不安の多い入試でしたが、結果として最後までぶれずに医学部をめざした人が力を発揮したように感じます。

国語

今後求められる「国語力」とは
知識・技能・読解力・記述力

富士学院 国語・小論文講師 齊宮 誠一 先生

国語力を養うには
精読による読書が有効

大学入学共通テストの大きな目玉だった国語の記述に関しては、見送られることになりました。そもそも記述は、センター試験で問われていた「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」も問うべきという声をもとに、導入が検討されていました。特に大学において、学生の読解力や記述力の不足を危ぶむ声が強かったようです。

こうした背景から、記述が中止されても、知識・技能に加え、読解力や記述力の増強を図るという指針は揺らがないでしょう。よって、今後求められる「国語力」とは、「知識・技能・読解力（思考力・判断力）・記述力（表現力）」になります。「知識」とは、漢字・語彙・文法・慣用語などのことです。語彙不足は文を読む

のに時間がかかるいちばんの原因ですし、文法が定着していない状態で記述がうまくなるはずがありません。「技能」は、英語同様「聴く・話す・読む・書く」の能力です。こう見ると、国語力は面接や小論文にもかかわると言えます。

「読解力」は文章を的確に読み取る力ですが、この場合の「的確」とは、筆者や出題者が重視している箇所やその意図を見抜くことを指します。よく他教科の講師から、問題を解く力の有無以前に問題文の文意が理解できていない、と聞きますが、それはこの視点の欠如が原因です。「記述力」については、最も危惧されています。なにしろ、他人にわかるように長文を書く経験をしていない人が多いからです（封書の手紙すら書いたことがないという人がほとんどではないでしょうか）。しかし、記述力は国語のみならず他教科の記述解答のわかりやすさにも関係

します。

こうした国語力を習得するには読書がいちばんです。1か月に1冊本を読む人と、まったく読まない人とは大きな隔たりが見られます。ただ、読書量が多いわりに力がない人もいます。この差は、その読書が「精読」なのかどうかに拠ります。文章を読んでいて不明瞭な語句が出てきた場合、辞書で調べるのが精読です。また、目で字を追うだけではなく、作者の主張や登場人物の心情などを因果関係で捉えようと考えるながら読むのも精読です。加えて、読んだ文の要約も国語力の向上に役立ちます。要約が億劫なら、内容を他人に説明してみましょう。説明が下手な人には、ポイントがつかめていない、順序立てて話ができない、頭ではわかっていても言語化できない、といった特徴があります。

以上から、読書をするときには、平易な語彙で書かれた簡易な内容のものではなく、少し難しめな本や新聞を読むことをおすすめします。いづれにせよ、急激に国語力が伸びる秘策というものはなく、普段から言語に真摯に接する姿勢を持つことが国語力の醸成につながります。量ではなく質を大切にしましょう。

Point.4

化学

勉強の質を見直すことで
思考力・応用力を涵養しよう

富士学院 化学科講師 河合剛志 先生

医学部独特の入試問題に
対応する力が求められる

医学部の一般入学試験では、ほとんどの大学で理科2科目の受験が要求されます。そのとき、受験生は「化学と物理」、または「化学と生物」のいずれかを選択し、「生物と物理」の選択をする受験生はほとんどいません。ゆえに、化学は英語や数学などと同じように受験必須科目であり、勉強を怠ることができない重要科目であると言えます。

2021年度入試から「大学入学共通テスト」が新たに実施されました。見慣れない文章を解釈して化学の知識を応用するような問題や、データを自分自身でグラフ化して考える問題など、「センター試験」では見られなかったような、思考力・応用力を試す出題が増えました。過去の入試問題をひたすら解き、解き方のパターンを覚え

込むといったような勉強方法では、おそらく高得点を取ることは難しかったでしょう。学生自身の勉強の質の改革を求めるようなメッセージが込められていると感じました。

一方、医学部の大学入試問題においては、この共通テストのような出題傾向が以前からずっと続いており、化学に関する深い知識を問う問題はもちろんのこと、化学を根本的に理解して応用していく能力が試される問題が多く出題されてきました。大学は筆記試験を通して、医師をめざす者に必要な資質である暗記力・思考力・判断力を見ているのです。また、難易度も年々難化傾向にあります。「化学は暗記科目だから直前に集中して勉強すれば何とかなる」という言葉を耳にすることがありますが、医学部入試の化学で合格点をとるためには、長期的な計画のもと、医学部独特の入試問題への対応能力をコツコツ養って

いかなくてもなりません。

日頃の興味・関心から
化学の素養を身につける

化学を勉強するうえで最も大切なのは、自然のさまざまな現象に興味をもち、学習内容を自分の体験に照らし合わせて考え、理解していく姿勢です。なぜ氷水に食塩を加えると0℃よりも温度が低くなるのか、なぜ炭酸飲料のふたを開けると気泡が現れるのかなど、身近な現象の理由を説明できるようにしましょう。

中学校になると、化学変化や化学反応式について学びますが、化学反応というものを、原子・分子・イオンという粒子を常にイメージして考えるようにしましょう。そうすることで、化学の素養が身につきます。高校の学習では、「化学基礎」の深い理解が非常に重要です。教科書をまですっきり読み、問題集の解説などには頼らず、問題の答えを自分の頭で考えて導き出すように心がけましょう。

「化学」で最も重要な単元は、有機化合物と高分子化合物です。特に天然高分子化合物は入学試験での出題率が高いので時間をかけて学習しておきましょう。

物理

言葉を通して数式を理解する
(理解型の学習)習慣を

富士学院 物理科講師 小林洋二 先生

「公式の丸暗記」では
判断力が身につかない

物理は学習の仕方によって学力の伸びに大きな差がつく傾向があります。結果、得意な人と不得意な人に二極化しやすく、大学入試での得意な人の有利さは他の科目よりも顕著になります。

では、学習効果が表れるかどうかの境界はどこにあるのでしょうか。結論から言うと、理解が伴っているかどうかということになります。理解が伴わない学習法の典型として「公式の丸暗記」というものがあります。

例えば、力学分野で「(質量)×(加速度)＝(力)」という式で表される運動方程式という法則があります。「質量」と「力」が与えられ、「加速度」を求めよという問題(教科書の練習問題など)では暗記型の学習でも対応できますが、大学入試

では、数ある法則・公式の中から「運動方程式を使えば解ける!」という判断力が要求されます。暗記型の学習ではこの判断力が身につきませんので、入試で合格点を上回るのにはかなり難しくなります。

次に、多くの人が理解を伴わない暗記型の学習に陥ってしまう理由を考えてみましょう。ある単元を新しく学習するとき、いくつかの物理量の定義、それら物理量の関係(法則)が数式で表されており、これらを言葉によって理解するにはかなり時間がかかりますが、丸暗記すれば短時間で学習が完結します。これを続ければ、入試で必須となる定義の意味や公式の導出過程について数式と言葉を連動させ、それを自在に繰り返していく力を養うことに失敗します。

理解型の学習が新たな
思考型の問題にも最適

具体的にある単元を学習する過程を見ていきましょう。教科書を一読し、教科書傍用問題集の基本問題を解きます。わからないときは解説を読んで構いません。正解できなかった理由を明白にして、曖昧な部分は何度も教科書を読み直しましょう。この段階で解消できない疑問点が多すぎる場合は、参考書、塾・予備校、Web上の動画コンテンツなどの利用を考えてもよいでしょう。各単元の学習初期段階で理解型か暗記型に分かれることになるので、初期段階を正しく進むよう心がけてください。

文部科学省の改訂された学習指導要領(思考力・判断力・表現力を重視)の影響を受け、近年の入試は様変わりしましたが、従来通どおり理解型の学習が最善策であることは変わりません。ただ、特色ある出題をする大学もあるので、過去問は事前に数年分を解いておくことは必要です。

また、より思考型になると予想された共通テストの難易度は、センター試験とあまり変わりませんでした。対策としては、過去問(センター試験を含む)を解き、余裕があれば対策問題集を併用することです。

Point.4

生物

学習法2ステップの実践で
思考力を身につけよう

富士学院 生物科講師 近藤 秀樹 先生

知識の丸暗記では
共通テストも対応困難

通常、高校2年生になると、理科の選択科目として物理か生物を選択することになります。医学部をめざす生徒の場合、覚える事柄の多い生物を避け、高得点を狙いやすい物理を選択する風潮があるように感じます。

ただ、日々受験指導をしている私の立場でみると、物理選択者は物理も化学も同等に時間を割いて学習するのに対し、生物選択者は化学に多くの時間を割き、生物を軽んじる傾向があるように思います。このような傾向が強い生徒の言いは、「生物は覚えてしまえば何とかなるが、化学は現象のしくみを理解しなければならず、生物よりは大変だから」といった答えが返ってきます。これでは生物の学力はなかなか上がりません。

生物にもさまざまな現象があり、その現象を理解することがいけば大切なのですが、生物が苦手な人の場合、現象のしくみを理解するところまでには至らず、生物用語を覚える段階で止まってしまっています。

そこで、生物用語をストーリー性をもってつなぎ合わせていく作業が必要になります。単に生物用語だけを断片的に覚えても入試ではなかなか戦えないのです。実際、2021年度から始まった「大学入学共通テスト」をみると、それ以前の「センター試験」に比べて考察型の問題が増え、知識の丸暗記では対応が難しくなっています。

では、どのような方法で生物の学習をしていけばよいのでしょうか？

まず、ステップ1として、教科書に載っている図やグラフが自力で書けるようになることです。ただ、このとき、図や

グラフの丸覚えでは効果はありません。その図やグラフにどのような意味があるのかを意識して取り組んでください。

ステップ2としては、生物用語を簡潔に説明できるようになることです。簡潔に説明できるということは、根本のしくみが理解できていないと説明できません。ただし、模範解答は教科書にしっかりと書かれています。教科書の太字の前後を読めば、必ず簡潔な表現が見つかります。このような作業を続けていくうちに生命現象の根本が見えてくるとともに、思考力が身につけていきます。

ところで、高校3年生になって外部模試を受けるようになると気づきますが、初見の実験考察問題が非常に多く出題されます。生物が苦手な人の場合、実験内容を読むことさえ苦痛に感じるかもしれません。しかし、模試や入試に出題される問題は、基本的に教科書に載っている内容を見せ方を変えて考えさせているだけにすぎません。ここで、活躍するのがステップ1とステップ2で培った力です。「この問題は教科書に載っているあの内容と同じだ！」と気づけばしめたものです。ぜひステップ1とステップ2を実践してみてください。

小論文

「良医」になれる資質を問う
医学に関する問題の理解が必要

富士学院 国語・小論文科講師 北村 曉 先生

変化する医学界について
考えさせる出題が増加

医学部入試の小論文にも「傾向」があります。ここ数年、大きな軸に変わりはないのですが、それでも細かな部分では変化が現れました。その点も踏まえて小論文の学習法についてお話しさせていただきます。

そもそも医学部入試の小論文は面接とともに受験生の人物像を確認しようとするものです。そのため、出題するテーマとしては「良医」になれる人柄、考え方を備えているかどうかを見るものが出題されています。この点が医学部入試の小論文の大きな「軸」で、大きな変化のない部分になります。

一方、具体的な出題内容としては医学的根拠とはどういうものかを問うもの、最新技術の可能性と課題について考えさ

せるものなど、医学の中の科学的側面、技術的側面を一人ひとりで考え方の異なる患者さんⅡ人間にどのように結びつけていくべきかを考えさせる出題が増えてきました。

「再生医療」や「mRNAを活用した創薬」など、新しい技術が日々登場している医学の世界をどのようにとらえるか、そして、その中にある問題を発見し、それをどう解決していくかを考えさせる問題が出題されるようになってきていると言えます。

医学部入試の小論文では、このように日々変化していく世界についてのことを問うものが多くなってきたので、日頃から医療にかかわる新聞記事やニュースなどに目を向け、医学を取り巻く世界のことを理解していこうとすることが内容面の学習法として大切なものになります。

読んでもらうことを意識し
わかりやすい文章を心がける

一方、小論文が「読んでもらう」ものである以上、書く技術の学習も重要になります。まずは国語の時間で学習する文章や新聞記事などを段落ごとに内容を整理し、わかりやすい文章にまとめあげることから始めましょう。そして、その内容についての自分の考えを結論や根拠、提案などの書く内容ごとに段落を分け、整理して記す練習を積み重ねましょう。その際、課題文の表現を参考にし、適切な言葉づかいや専門用語を確認していくと、表現力を高めていくことにつながります。また、機会があれば添削指導を受け、自分の弱点を確認し、よく意識して直していくといいでしょう。

もちろん、一度にたくさんのことを行う必要はありません。受験までのスケジュールを考えて定期的な学習を積み重ねていけば十分です。その中で、医療とそれをとりまく世界についての知識を増やしていくとともに、自分の考えを適切な段落分けと表現を用いて記していく力を自分のものにしていくことを、目指していきましょう。



親として心配はしましたけれど、苦勞したという感じはないですね。本人が納得行くなら、やらせたことだし、娘と富士学院を信じていました。

Q7 保護者として一番苦勞なされた点はどこなところですか？

2浪目で私立の医学部には合格できたのですが、私が国公立じゃないと行かせないと言っていたので、やっぱり精神的なプレッシャーが、娘の一番苦勞したところだと思います。

Q6 医学部合格までにご本人が一番苦勞した点はどこなところだと思いますか？

の医学部に行きたいという思いをすごく真剣に受け止めて、親身になって応えていただいたことにすごく感謝しています。

Q9 合格を勝ち取ることができたポイントがいくつかあると思いますが、思い当たるポイントを教えてください。

ポイントがたくさんありますが、あえて一つを選ぶなら、1浪目で失敗した時、次の1年で医学部に合格するためにはどうするのかを娘が自ら考えて、自ら富士学院を見つけてきたこと。これに尽きると思います。



家族のコミュニケーションが大切だと思っています。みんなが一つのゴールを目指して、みんなが同じように考えながら、進んでいくことが大切。娘の考え、私の考え、妻の考えというのバラバラだったら、これもうまく行っていなかったような気がします。

Q10 医学部受験生を持つ保護者の方にお伝えしたい、ご自分の経験を通して得たアドバイスはありますか？

大手予備校だと大勢いる中のただの一人だろうけれど、富士学院の場合はほとんど一対一のようなすごく丁寧できめ細やかな対応でした。娘

Q5 富士学院は保護者である三戸さんから見てどういう予備校でしたか？率直にお聞かせください。

1年目は大手予備校に通っていましたが結果が出ず、そのため医学部専門の進学塾に行きたいという娘が富士学院に行き、校舎長とお話する中で、ここなら夢が叶う、国公立の医学部に合格できるのではないかと確信を持ったと私に話したからです。



三戸 健太 様
娘の陽色さんが富士学院から福島県立医科大学へ合格

娘と校舎長を信じ、初めて掴んだ 私立合格を見送ってもう一年 3浪目で勝ち取った悲願の国公立合格



福島県立医科大学一般入試合格

保護者合格インタビュー

Q1 お子さんが具体的に医学部を目指したいと言ってきたのは、いつ頃ですか？

高校3年生の夏休みです。娘の従兄弟が若くして病死したことで、私が大動脈解離という大病を患ったことが重なった時期でした。

Q2 保護者として、お子さんの希望進路を聞いた時のお気持ちをお聞かせください。

医師は誰がなんと言おうと人のためになる仕事。娘がその仕事に就きたいと思ってくれたことに對して、親としては背中を押してあげたいと思いました。

Q3 浪人が決まった時の心境について教えてください。

準備期間が短かったので、本人もよく頑張ったけれど仕方がないという思いが強かったですね。娘の場合、2浪目が決まった時が実質的な浪人生活のスタートだと思っています。

Q4 予備校選択は合否に関わる大事な選択ですが、富士学院を選んだ理由について教えてください。

サラリーマン家庭という経済的な理由から、娘を含め私達が目指したのは私立ではなく国公立一本です。

お父様にインタビュー



藤田医科大学一般入試合格

**富士学院で学んだ1年は
これから医師になる娘にとって
貴重で大切な経験になりました。**

Q1 お子さんが具体的に医学部を目指したいと言ってきたのは、いつ頃ですか？

小学校5、6年生の頃でした。小学校5年生の時に入院した経験があり、その時にお世話になった女医さんの仕事姿に憧れたのがきっかけになったようです。

Q2 保護者として、お子さんの希望進路を聞いた時のお気持ちをお聞かせください。

まだ小さな時でしたし、本人の気度はわかりませんでした。医師になると本人が決めたことですから、私としては夢が叶うまで応援しています。

ていきたいと思います。

Q3 浪人が決まった時の心境について教えてください。

現役の時とは地方の国立大学医学部の地域枠を狙っていました。塾の先生も大丈夫と言ってくれましたが、本人の気持ちが変わらなかったのがうれしく、直ぐにもう1年応援してみようという気持ちになりました。

Q4 予備校選択は可否に関わる大事な選択ですが、富士学院を選んだ理由について教えてください。

Q5 富士学院は保護者である谷さんから見てどういう予備校でしたか？率直にお聞かせください。

集団授業なのに、辛抱強く理解・納得するまで教えてくださった学習面はもちろんですが、精神面や生活面等すべてで娘を支えてくださいます。

Q6 医学部合格までにご本人が一番苦労した点はどこか？

浪人スタート当初だったと思います。本人も医学部受験の厳しさを知られ、「去年の自分は甘かったな」と言っていました。

Q7 保護者として一番苦労なされた点はどこか？

1年という期限付きだったので、それがプレッシャーになりはしないか、無理をして健康を崩してしまうのではないかと心配したところですね。でも、寮の食事がちゃんとしていたし、先生方が精神面でも支えていた。

Q8 これまでを振り返ってみて、「保護者としてもこうしていれば良かった」ということはありますか？

現役で国立の地域枠に受かったのが一番良かったのかもしれないが、それがダメだったおかげで、富士学院での貴重な1年があつて、本人も私もすごく良かったと思っています。結果的には反省点というのはありません。

Q9 合格を勝ち取ることができたポイントがいくつかあると思いますが、思い当たるポイントをお聞かせください。

予備校がたくさんある中で、本人が富士学院に決めたことが一番のポイントだったのではないのでしょうか。富士学院のおかげで合格できた。

Q10 医学部受験生を持つ保護者の方にお伝えしたい、ご自分の経験を通して得たアドバイスはありますか？

医師になりたいと本人が思っている子供には、あまり口出ししないで支えてあげて欲しいと思います。肝心なのは本人のやる気。親としては、押し付けにならないこと、お子様を信じてあげることが大切なんじゃないかなと思います。



お母様にインタビュー



谷 朱美 様

娘の優美花さんが富士学院から藤田医科大学へ合格

